

岐阜の まちなか歩き

① 川原町コース

鵜飼を待ちながら鵜飼を知る

① 鵜飼観覧船待合所（仮設）

鵜飼観覧船乗船までの待ち時間を過ごせるよう、鵜飼観覧船事務所の正面（道向い）にある。平成21年の春頃には、新しい待合所が完成する予定。

一振りに伝統あり

② 団扇

岐阜を代表する伝統工芸品の一つ。漆の塗り団扇をはじめ、柿渋を使った渋団扇、雁皮紙（薄いと紙）を使った水団扇の3種がある。和紙は美濃和紙を使っている。岐阜団扇は、明治中期に京都の「深草」から暖簾分けした職人が起源とされ、京都の団扇の特徴である縦長の形が継承されている。現在は、湊町の1店が製造・販売をするのみ。岐阜の団扇は、京都の貴族が書いた「御湯殿上日記」（室町時代）に登場するのが記述として初めてとされる。それによると美濃国瑞竜寺から団扇が毎年献上されていたが、どのような団扇だったかは不明で、現在の岐阜団扇とは別の系統になるとみられる。

岐阜市には珍しい卯建

③ 卯建（川原町）

岐阜市内では、卯建のある家屋は数軒しか残っていない。川原町のものは、卯建のルーツといえる袖壁だといふ。卯建は、元々は火災の延焼を防ぐための設備である。出でできないこと等を「卯建が上がらない」といふのは、この卯建を家につくれないほどとさえないからという説と、棟上のごとを昔は「税を上げる」と言い、お金持ちでない家を建てられない、という説とがある。

どうやって語る？

④ 屋根神

屋根神は、棟割長屋などの屋根に祀られている。通常は、道を挟み両側の10～20戸程度がまとまって祀っている。全国どこにでもありながらも、愛知県名古屋・津島市・三河、岐阜市など、濃尾平野を中心に祀られる。名古屋では明治初期から祀られるようになったという。岐阜のもとは、火事を守るための秋葉神社が祀られていることが多いという。

江戸へ時間旅行

⑤ 商家づくりの家・古い町並み

岐阜市において、江戸時代からの古い町並みが最もまとまって残っているのが川原町である。これは、明治24年（1891）の濃尾震災や、戦争の罹災を奇跡的に免れたためで、江戸～明治期の格子組の商家・町家が見られ、「岐阜市都市景観重要建築物」に指定された建物もある。「川原町」は実は町名ではなく、かつて長良川に川湊があった。現在の湊町、玉井町、元浜町の総称である。最初に川湊をつくったのは斎藤道三とされ、それ以降水運が盛んとなり、長良川上流からは木材・竹材・美濃和紙などが集まり、材木問屋や紙問屋が並びこととなった。

斎藤道三の寺跡

⑥ 美濃六庚申堂

この庚申堂は、伝燈護国寺の跡地とされる。この寺は、斎藤義龍が永禄3年（1560）に、京都の妙心寺から僧・別伝を招いて建てたといわれる。義龍は、その当時勢力を増しつつあった禅宗寺院を抑えようと、禅宗の中心寺院だった瑞龍寺から、この寺に統制権を移そうとした。しかし、禅僧の快川紹喜（かいせんじょうき）らによる「別伝の乱」が起きた。翌年、義龍が亡くなり反乱も治まった。その後、この寺は廃寺となり、庚申堂が残るのみとなっている。

洪水から守る大切な門

⑦ 逆水樋門

全国的にも珍しく、長良川には堤防の中（川側）に町がある。川原町もその一つで、以前は大雨で長良川が増水すると浸水被害を受けやすかった。そこで、忠節用水に逆水樋門を設置し、長良川本流からの逆流による浸水を防ぐようにした。

「白い魔魚」ゆかりの旧旅館

⑧ 旧いとう旅館

長良川の岸辺の元浜町にある旧旅館。川原町のメインストリートからは外れた所に位置しているが、風情ある建物は一見の価値あり。舟橋聖一が書いた小説「白い魔魚」の舞台となったことで有名である。この小説が映画化された際は、岐阜でも撮影が行なわれた。主人公の紙問屋の娘「電子」役は、有馬稲子さんだった。

この辺りからの眺めが「十八楼」

⑨ 賀嶋鷗歩邸跡（十八楼命名の地）

元禄元年（1688）5月、それまで京都に滞在していた芭蕉は、東京に戻る折、妙照寺の住職「己上人」に案内され岐阜に寄った。この時の滞在期間は約1ヶ月で、芭蕉の各地での滞在期間としてはかなり長い。この時、賀嶋鷗歩（岐阜市日野中川原の商人）や安川落橋（岐阜市本町の商人）と吟詠唱和した。芭蕉は、長良川河畔で現在の川原町にあった賀嶋鷗歩の別荘を訪れた際、その水楼からの長良川の景勝を賞し、中国の代表的景観である「瀟湘（しょうしょう）八景と西湖十景を合わせたほどの風情がこの水楼を渡る涼風にあり」として、ここを「十八楼」と名づけたとされる（賀嶋氏の亭に「十八楼」と命名したという説もある）。現在、その水楼などは全く残っていない。

長良川を湛える芭蕉の当地句

⑩ 芭蕉句碑（ホテル内）

「このあたりめにみゆるものは皆涼し」長良川河畔のホテル内にある。句は川原新田の油商だった賀島善右衛門邸の水楼から、長良川の景色を見渡し、その美しさに感動して詠んだものとされる。芭蕉は「十八楼ノ記」に、中国の代表的景観である「瀟湘（しょうしょう）八景と西湖十景を合わせたほどの風情がこの水楼を渡る涼風にあり」と、ここを「十八楼」と名づけたことを記している。水楼に名づけたという説もある。

マップについての問い合わせ先 岐阜市観光コンベンション課 電話058-265-4141

川原町コースには、こんなにすてきな見所があります。あなたはどこに行ってみます？

鵜飼のことならここへ

⑪ 鵜飼観覧船事務所

鵜飼を船に乗って楽しむ際、この事務所で乗合船や貸切船の予約ができる。現代の建築ながら、景観にとけこむ建物で、傍らの川灯台ともマッチしている。山口誓子の句碑もある。

鵜飼を詠んだ最も有名な当地句

⑫ 芭蕉句碑（ポケットパーク名水）

「おもしろうてやがて悲しき鴉舟かな」長良橋南詰のポケットパーク「名水」にある。芭蕉が詠んだこの句は、鵜飼を詠んだ俳句の中で最も有名なものの一つ。華やかな鵜飼が終わった後の静寂の中に、芭蕉は鶴の哀れ、生きるために魚を獲らなければならない人間の宿命を感じたのか、この句を詠んで以降、彼は魚類を一切食べなくなったといわれる。

都市を貫く奇跡の川

⑬ 長良川の風景

人口40万人の都市の真ん中を大河川が流れるのは、岐阜市において他にないだろう。しかも流れているのは、日本三大清流の一つ、長良川。この川が場所や季節によって見える様々な表情・風景は、岐阜市民の誇りである。

日本でも珍しい水の資料館

⑭ 水の資料館

長良川の伏流水を、岐阜市の水道水の原水として市民に供給した施設（長良川は、昭和60年（1985）3月、当時の環境庁に「名水百選」に選定）。昭和5年（1930）に、鉄筋平屋建てで建築されたエンジン室とポンプ室は、平成13年（2001）に国の登録有形文化財に指定された。そのエンジン室は、平成14年（2002）に「水の資料館」とされ、一般公開されている。

金華山の麓にたたずむ神社

⑮ 護国神社

この神社には、岐阜の出身者で、日清戦争、日露戦争、第二次世界大戦の犠牲になった約37,000人の英霊が祀られている。昭和14年（1939）、当時の内務省令により建てられたが、建設においては、県・市町村・各職域団体の浄財や勤労奉仕があり、地域に密着した神社として生まれた。ここには、「鵜飼楼」があり、以前はこの桜の咲き具合で鵜飼の豊漁の程度を占っていたという。

設計図は要らない。

日本でも珍しい木造和船の造船所

⑯ 鵜飼観覧船造船所

全国の都市の中で、木造和船の造船所があるのは岐阜市のみとされる。ここでつくられる船は、鵜飼用のものである。船の設計図はなく、職人の熟練された技術で製作される。そのため、1年間に2艘ほどしか造られない。しかし、それだからこそ一見の価値があり、一般見学ができるよう、平成16年度に改修をした。

儲かる所に役所あり

⑰ 川役所跡（川荷税関）

江戸時代、長良川の舟運は大変に盛んだった。かつて、ここには中河原湊があり、長良川上流から美濃の特産物である美濃和紙をはじめ竹・材木や酒・茶、開からは刃物が、そして下流からは伊勢湾の魚介類や昆布あるいは塩などが舟で運ばれ、各地に販売された。こうした積荷に課せられた通行税を徴収するため、寛永13年（1636）、尾張藩によって長良川役所が設けられた。筏乗りや荷揚げ人足などの管理も、川役所の仕事で、藩の国奉行や代官の手代が常駐した。また、実務は付問屋の商人が行なった。中河原湊からは、享保8～10年（1723～1725）の間に、年平均1,700艘の舟が下ったと、川役所の記録に残されている。

川縁にはムクノギ

⑰ 川役所跡のムクノギ

かつては、川湊、堤防など川縁にムクノギがよく植えられた。成長が早く、枝をよく広げて目立つからといわれる。

杭州市の魅力が詰め込んだ庭園

⑱ 日中友好庭園

平成元年（1989）、岐阜市と杭州市（中国）の友好都市提携10周年を記念して造られた庭園で、岐阜公園の北部に位置している。庭園入り口の雌雄対の獅子、中国風の門・土塀・東屋などが異国情緒を醸し、また杭州市の名所である西湖を模して造られた池が四季の風景を映す。春は桜の名所として親しまれ、夏の新緑、秋の紅葉も楽しめる。

岐阜城落城・女中の無念

⑲ 御手洗池

金華山々麓、岐阜公園内の北側に位置する。元々は長良川の淵だった。かつては、この池の背後にあたる金華山丸山に伊奈波神社があったため、この池で手を洗って参拝した。それがこの池の名の由来とされる。伊奈波神社は、天文8年（1539）に斎藤道三が稲葉山城に居城するにあたり、現在の場所（伊奈波通）に遷されたこととされる。慶長5年（1600）、関ヶ原合戦の際、当時の岐阜城主織田秀信（信長の孫）は西軍の石田三成に加担したことにより、東軍の福島正則・池田輝政から猛攻を受けて落城した。その時、大勢の奥女中らがこの池に投身したといわれる。

水を見守るロボット？

⑳ ロボット水門

昭和7年（1932）、鏡岩から元浜町に至る新しい導水路が忠節用水に直結された際、水防・放水量調節のために造られた（高さ9.5m、幅5.7m）。改修時に頂部に円錐が加えられ、丸い窓と共にロボットのような愛嬌のある外見となり、「ロボット水門」と呼ばれ親しまれるようになった。この水門は、岐阜県近代化遺産の指定も受け、文化的にも評価されている。

水と親しむ

㉑ コミュニティ水路

「湊コミュニティ水路」は、長良川の清流を引き込んだ忠節用水の放水路沿いに設けられている。藤棚をくぐる散策道・デッキ・ハツ橋・滝廻前の沢飛石・親水階段・玉石・季節に応じた植栽などを配し、水に親しむようになっている。水路自体にも魚の棲める深みをつくるなどの配慮がされている。水路の流量の調節は、「ロボット水門」の役割である。岐阜市内には他にも、清水川、早田川、西野町にコミュニティ水路がある。